

手番および場札の上限の規定

A 手番順は、「準備」の前に以下のように決めます。

A-1 プレイヤーは、車座になるように自由に席をとります。

A-2 ひとり1枚ずつカードを引き、もっとも大きい価のカードを引いた人を1番手とします。同価が2人以上いる場合は和文の文字数の多いほう、それも同じ場合は、英文の単語数の多いほうとします。

A-3 1番手から時計回りとします。

A-4 カードを戻し、「準備」から始めます。

B はじめの場札の上限枚数は **3枚**とします。

負けについて

C 負けたプレイヤーは、ただちに手札をすべて捨て、ゲームから離脱します。これを理由にゲームは終わることはありません。

* ただし、各自はじめの手番では「負ける」はおこなえないものとします。

途中の勝者について

D-1 だれかが勝者となることを理由にゲームが終わることはありません。

D-2 いちど勝者になったひとが負けた場合、勝者であることは取り消されます。

千日手について

E 千日手をレフェリーに指摘された場合、その手はおこなえません。

故意の早期の勝者なき終了の制限

F 以下の状態でゲームが終わった場合、勝者なしとして、そのまま場札と全員の手札とわきに伏せたカードを捨て、山札からくぱり直し、最後に手番をした人を1番手としてふたたびゲームを始めます。

F-1 まだ手番のまわってきていないプレイヤーがいる

F-2 勝者がいない

*ただし同様の場合が2回目以降あったとき、場札が尽きて終わった場合には「山札をすべて捨てる」おこないを含むカード、それ以外の場合には「ゲームを終える」おこないを含むカードをよんでいたひとは、以降その回戦に参加できないものとします。

ゲームの長期化の防止

G-1 大会の規定する終了時間になるか、だれも何もおこなえなくなった場合、その時点でゲームを終えます。

G-2 長考をレフェリーに指摘された場合、ただちに手をおこなわなければ負けです。

G-3 大会の規定する終了時間の5分前を過ぎたら、「捨札をシャッフルして山札に重ねる」カードは「このカードを捨てる」カードとして扱います。

勝者から進出者を決定する

H 進出者は、ゲームの勝者の中から、以下のようにして決定します。

H-1 唯一の勝者がいる場合、その人数にかかわらず、唯一の勝者が進出します。

H-2 唯一の勝者がいない場合、勝者がその人数にかかわらず、進出します。

初心者への配慮

I-1 プレイヤーは、いつでもレフェリーにカードの補足説明を求めることができます。

I-2 レフェリーはみずからの判断で、プレイヤーにカードの補足説明をすることができます。

I-3 プレイヤーは、解釈を誤ってカードをよんだ場合、レフェリーからの指摘後に取り下げることができます。ペナルティはありません。

I-4 カードのよみあげは、レフェリーを含め、なるべく相手に聞こえるようにお願いします。